



発行：島根県教育庁出雲教育事務所
(学校教育スタッフ)

住所：出雲市大津町1，139番地
電話：(0853)30-5682

管内の各学校においては、子どもたちの学力育成に向け、日々真摯に取り組まれているところ

です。今年度、出雲教育事務所では、管内の子どもたちの学びがさらに高まることを願い、授業改善等の視点から提案を行うとともに、各学校の学力育成の取組の参考にさせていただくことを趣旨として、学び通信「ぐんぐん」を発行することとしました。年3回の発行を予定しています。

さて、5月19日(火)～7月8日(木)の期間、管内市町派遣指導主事等とともに管内95校の全ての小・中学校を対象に、学力育成に係る学校訪問指導を行いました。第1号では、今回の学校訪問指導を通じて明らかとなった「学力育成に向けた授業改善の在り方」及び「全国学力・学習状況調査本校採点結果に基づく分析及び改善策策定の具体的な方法」のポイントについて紹介します。

1 学力育成に向けた授業改善の在り方

全ての学校の授業から、全教科領域を通じた「学力育成に向けた授業改善の在り方」を10のポイントにまとめました。それぞれのポイントでは管内の学校で見られた優れた実践事例を紹介します。



ポイント1 学校全体で統一した取組が進められていますか。

全ての学級で「めあて」、「ふりかえり」の共通マグネットを使用し、授業を行っている学校があります。また、聞き方、話し方、学習規律等について全学級に共通の掲示をしたり、授業の流れを授業のはじめに提示したりする等、どの子にもわかりやすいユニバーサルデザインの授業を意図している学校があります。

ポイント2 間違いを言っても笑わない、わからなかったら助けてくれる学級、授業になっていますか。

間違いを言っても笑わない、またわからない時は友だちが自然に助けてくれる学級では、授業中に子どもたちが心を開き、自由に意見を言ったり、友だちの意見をよく聞いたりしています。学級づくりと授業づくりを両輪で進める大切さを痛感します。

ポイント3 「聴く」態度が育っていますか。

じっくり考え、話し合ったり、活動したりする学級、授業は間違いなく子どもたちの「聴く」態度が育っています。子どもたちを引きつけ、「聴く」態度を育てる指導が重要です。

ポイント4 授業の「めあて」は、子どもにとっての「めあて」になっていますか。

指導者の一方的なめあて設定ではなく、前時のふりかえりの際の子どもの感想を引用しながら、本時の授業のめあて・内容が自然に導き出されています。

また課題提示から、考えてみたいこと、解決したいことなどを子どもが話し合う中でめあてが決まっていく実践もあります。



ポイント5 子どもの考えを生かした授業展開になっていますか。ペア学習、グループ学習等子どもの考えや意見が自然に出るような場の設定を行っていますか。

一方的な講義形式の授業ではなく、子どもの意見を大切に引き上げ、展開される授業では子どもたちが生き生きと学んでいます。またペア学習、グループ学習の形態を適宜取り入れ、子どもが何を考え、どのような思いをもっているかを把握し、子どもの考えを大切に授業展開が子どもを「学び」の主役にします。

ポイント6 効果的な評価言を行っていますか。

子どもの反応や意見に対して、共感的に、時には指導的に効果的な評価言が行われている授業があります。まず肯定的に「誉める」こと、そして子どもの意欲を引き出す評価言について今一度見直してみましょう。

ポイント7 適切な個別指導等を行っていますか。

子どもが個人で課題に取り組んでいたり、グループで話し合ったりしている際に、適切な机間巡視を行い、がんばっている子どもを誉めたり、励ましたり、子どもが困っていることを把握したりしながら、次の授業展開に生かしています。子どもの中に入って子どもの学びをよく見てみましょう。

ポイント8 「ふりかえり」の時間では学習を既習事項、学び合い、生活、社会等と結びつけてふりかえっていますか。

ふりかえりの際に、子どもがどのように何を学んだか、学び方をふりかえったり、本時の学習を既習事項、自分の日常生活、社会事象と結びつけ、思いにあふれたふりかえりをおこなったりしています。全国学力・学習状況調査の活用の力の育成に係る指導です。

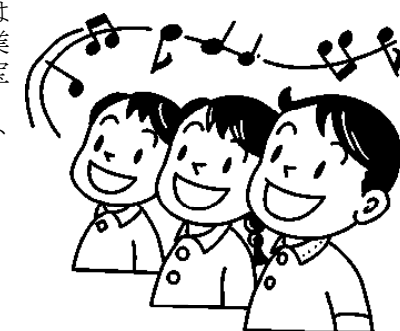
ポイント9 1時間の授業の流れがはっきりわかる板書で終わっていますか。

子どもにとってよくわかったと感じられる授業では、めあて設定からふりかえりまで1時間の授業の流れがはっきりわかる板書が行われています。授業を見ていなくても板書で子どもの1時間の学びがはっきりと伝わってきます。また、板書を写真にとって互いの板書について意見交換をしている学校があります。

ポイント10 自分の学びの足跡がわかるノートづくりが行われていますか。

授業のめあてからふりかえりまで、1時間の学びの足あとがはっきりわかるノート指導が行われている授業があります。授業後に見ても自分の学びが一目瞭然です。子どもにとって学びの宝物になっています。

また、全ての子どもノートを研究職員会に持ち込み、ノート指導の在り方について協議している学校があります。



2 全国学力・学習状況調査自校採点結果に基づく分析及び改善策策定の具体的方法

今回の訪問の際に、平成27年度全国学力・学習状況調査自校採点の進捗状況をうかがいました。学校によっては、県が提供している分析ソフトへの入力をもとに、具体的な改善策まで策定している学校がありました。

これから改善策を策定される学校の参考になると考え、管内の学校の優れた結果分析及び改善策策定の5つのポイントを紹介します。

ポイント1 調査問題を実際にやってみる。

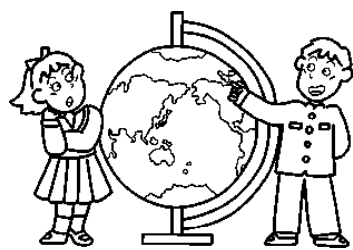
数値だけ見るのではなく、実際に調査問題をやってみることで問題の意図がよくわかり、改善の方向が明らかになります。時間の制約があるので、出雲教育事務所が学校訪問の際にお渡しした典型的な活用の問題を取り上げてみたり、自校で誤答の多かった問題を取り上げてみたりして取り組まれてはどうでしょうか。

管内の学校では既に研究職員会の際に全職員で問題に取り組んでいる学校があります。

ポイント2 「強み」と「弱み」を明らかにする。

自校の「強み」と「弱み」の要因・背景について自己分析を行い、改善策に生かすことが重要です。

また、とかく「弱み」のみを取り上げ、改善策を策定しがちですが、「強み」を明らかにし、自信をもって、その「強み」をさらに伸ばすことが大切です。



ポイント3 結果を他教科等また他学年の指導に生かす。

調査教科の結果分析から他教科等においても改善を図る必要がある内容が見えてきます。結果分析、改善策策定を調査教科担当者まかせにせず、教科を越えて共通する改善の方向を明らかにすることが重要です。

また調査学年だけで課題が解決できない場合も多く、他学年での指導の見直しも必要になってきます。教育課程全体の見直しが必要である場合もあります。

ポイント4 日常の指導を見直す。

分析結果に基づき、日記指導、作文指導、メモ指導、新聞の活用等、日常の指導について見直してみましょう。

ポイント5 総合的な学習の時間、学校図書館活用教育、プリント配信システム活用等との関連を考える。

活用の力を育む改善策を考える場合、総合的な学習の時間が探究的な学習になっているかどうか点検したり、学校図書館活用教育の年間指導計画を見直したり、指導方法を検討したりすることが重要です。

また、基礎・基本の指導、あるいは活用の指導において県が配信しているプリント配信システムの活用について見直している学校もあります。

管内の学校で、自校採点結果分析及び改善策策定を行っておられる3校の取組例を紹介します。ぜひ参考にしてください。

